



2023 年 9 月 期 第 2 四 半 期 決 算 説 明

株 式 会 社 丸 山 製 作 所

代 表 取 締 役 社 長 内 山 剛 治

次 の 1 0 0 年 を 創 る
- All for the Future -



目次

1. 2023年9月期 第 2 四半期 業績概要 P.2
2. 2023年9月期 業績予想 P.14
3. 第8次中期経営計画 P.19
4. 参考資料 P.28
会社概要 財務諸表 等



1 2023 年 9 月期 第 2 四半期 業績概要

【2022 年 10 月 1 日～2023 年 3 月 31 日】

2 2023 年 9 月期 業績予想

【2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日】

3 第 8 次中期経営計画

【2023 年 9 月期～2027 年 9 月期】

4 参考資料

会社概要 財務諸表 等

2023 年 9 月期 第 2 四半期 業績概要

単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2 四半期 実績		2023 年 9 月期 通期予想	2023 年 9 月期 第 2 四半期 実績		
	金額	売上高 比率	金額	金額	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	17,980	—	40,000	18,431	+ 451	+ 2.5%
営業利益	651	3.6%	1,800	425	△ 226	△ 34.8%
経常利益	711	4.0%	1,750	424	△ 287	△ 40.3%
当期純利益	518	2.9%	1,200	378	△ 140	△ 27.1%
為替レート 米ドル	122 円		135 円	134 円		
為替レート ユーロ	137 円		140 円	146 円		

経済

- ・ 新型コロナウイルス感染対策の緩和や各種政策の効果により緩やかな回復
- ・ 地政学的緊張の高まりの長期化による資源やエネルギー価格の高騰
- ・ インフレ警戒に伴う各国の金融引き締めによる急激な為替変動

変動要因

- | | | | |
|------|----------------------|-------------------|-------------|
| 【日本】 | ・ アグリ向け大型機械やセット動噴の減少 | ・ ホームセンター向け刈払機の増加 | ・ 防災関連部品の増加 |
| 【海外】 | ・ 欧州向け刈払機の減少 | ・ 北米向け工業用ポンプの増加 | |

農林業用機械

- ・ 動力噴霧機
- ・ 動力散布機
- ・ 高性能防除機
- ・ 刈払機
- ・ チェンソー
- ・ その他



工業用機械

- ・ 工業用高圧ポンプ
- ・ 高圧洗浄機



その他の機械

- ・ 消火器
- ・ 防災関連機器
- ・ 環境衛生用機械
- ・ その他

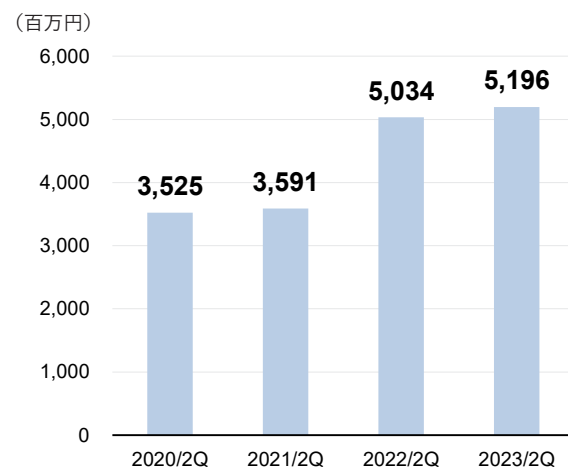


不動産賃貸他

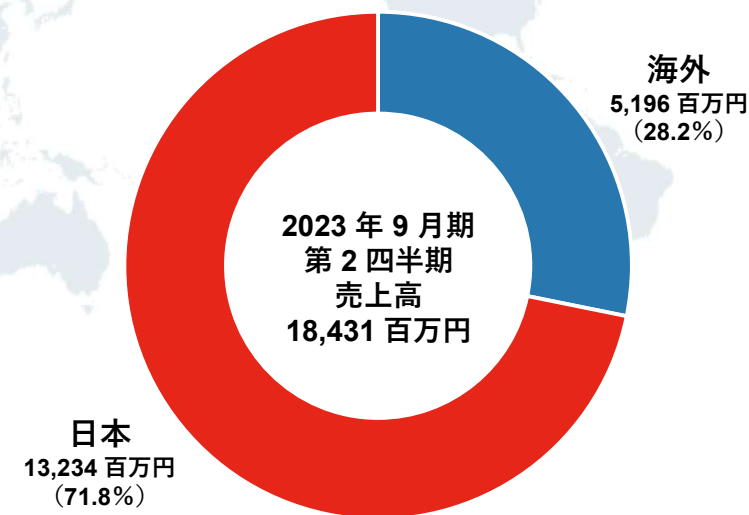
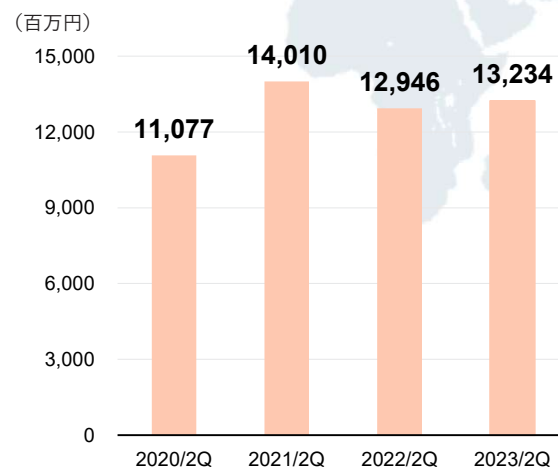
- ・ 不動産賃貸
- ・ 売電事業

海外の売上高の状況

海外



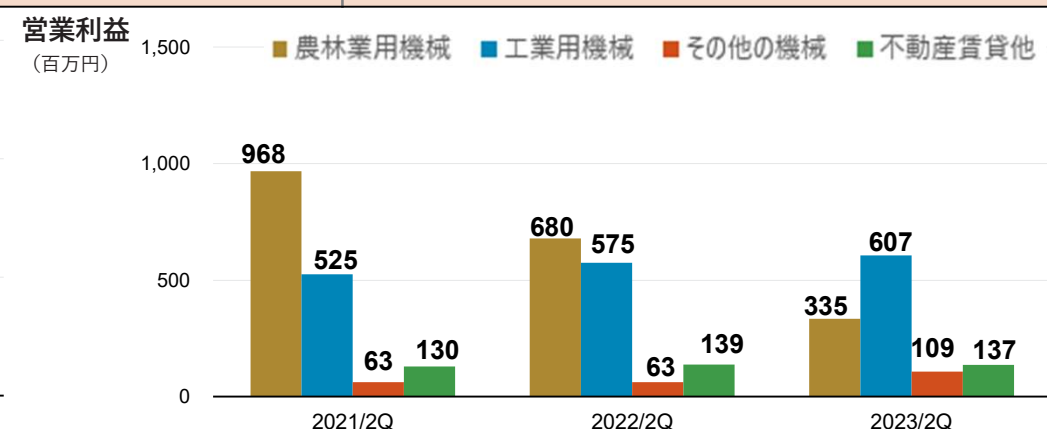
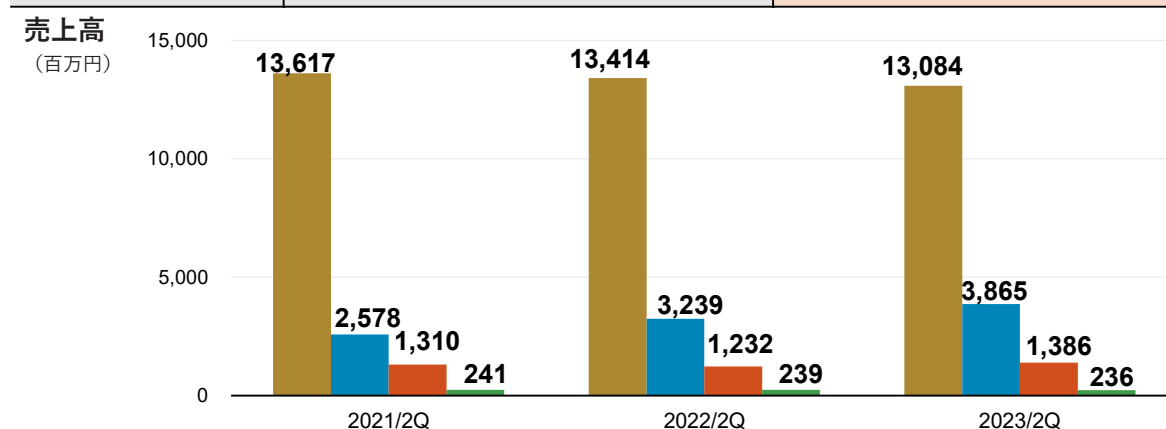
日本



単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2 四半期実績		2023 年 9 月期 第 2 四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比
海外	5,034	28.0%	5,196	+ 162	+ 3.2%	28.2%
日本	12,946	72.0%	13,234	+ 288	+ 2.2%	71.8%

セグメント別 業績概要

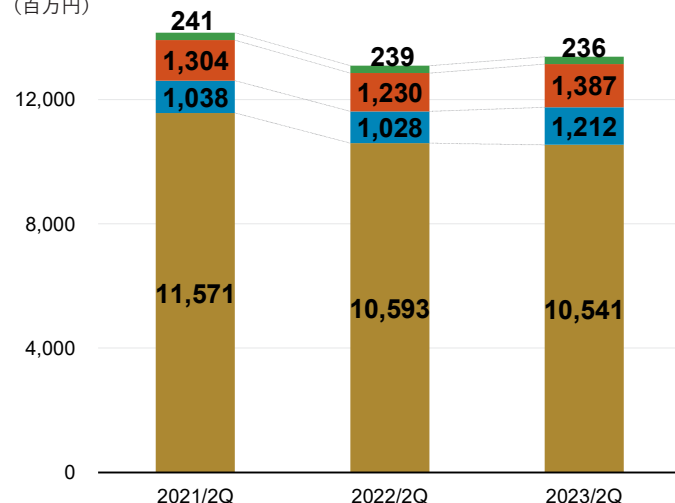
単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2 四半期 実績			2023 年 9 月期 第 2 四半期 実績							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比	営業 利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	13,414	74.0%	680	13,084	△ 330	△ 2.5%	70.5%	335	△ 345	△ 50.6%	28.2%
工業用機械	3,239	17.9%	575	3,865	+ 626	+ 19.3%	20.8%	607	+ 32	+ 5.5%	51.1%
その他の機械	1,232	6.8%	63	1,386	+ 154	+ 12.5%	7.5%	109	+ 46	+ 74.1%	9.2%
不動産賃貸他	239	1.3%	139	236	△ 3	△ 1.2%	1.3%	137	△ 2	△ 0.9%	11.5%
調整額 (セグメント間取引)	△ 143	—	△ 806	△ 141	+ 2	—	—	△ 765	+ 41	—	—
合計 (うち海外)	17,980 (5,034)	100.0% (28.0%)	651	18,431 (5,196)	+ 451 (+ 162)	+ 2.5% (+ 3.2%)	100.0% (28.2%)	425	△ 226	△ 34.8%	100.0%



セグメント別 売上高（日本）

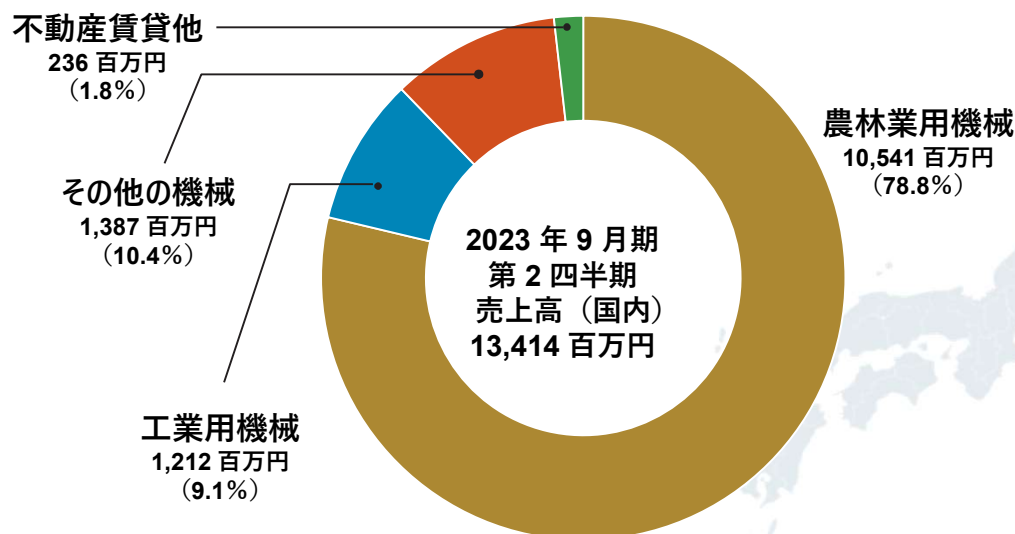
売上高

（百万円）



農林業用機械：大型機械やセット動噴の減少

工業用機械：洗浄機・工業用ポンプの増加



単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2 四半期実績		2023 年 9 月期 第 2 四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比
農林業用機械	10,593	80.9%	10,541	△ 52	△ 0.5%	78.8%
工業用機械	1,028	7.9%	1,212	+ 184	+ 17.9%	9.1%
その他の機械	1,230	9.4%	1,387	+ 157	+ 12.8%	10.4%
不動産賃貸他	239	1.8%	236	△ 3	△ 1.3%	1.8%

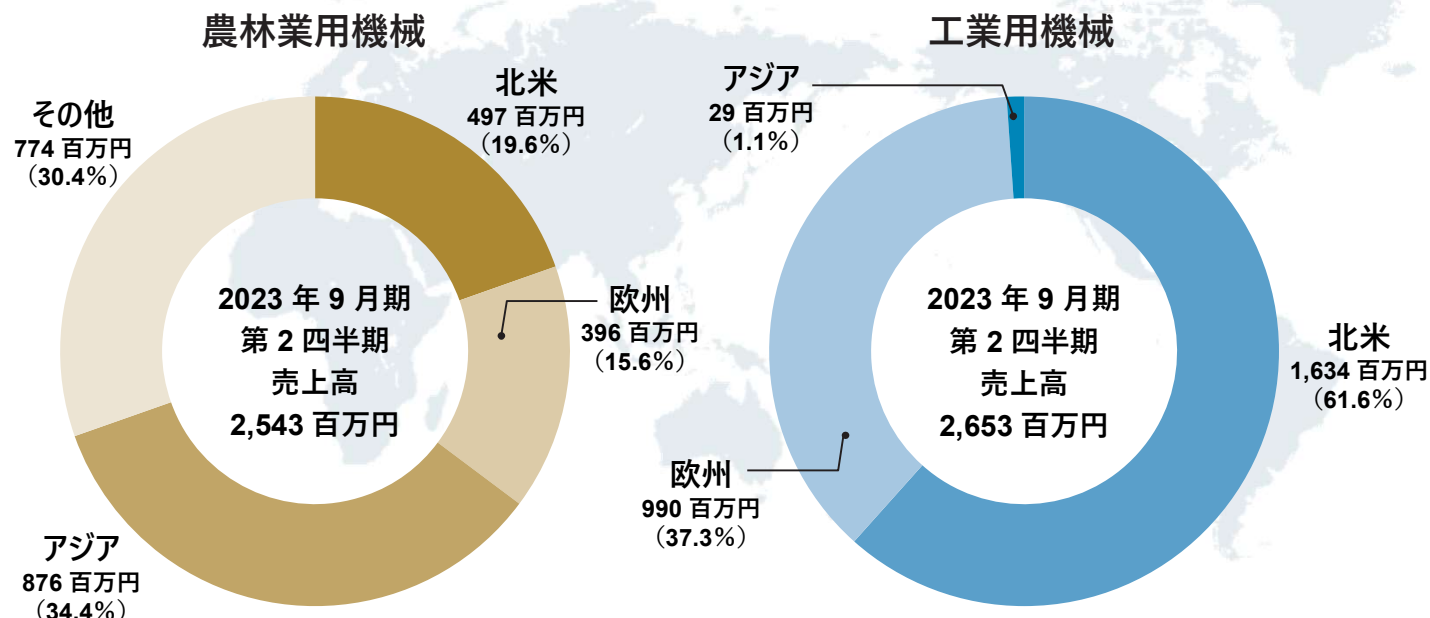
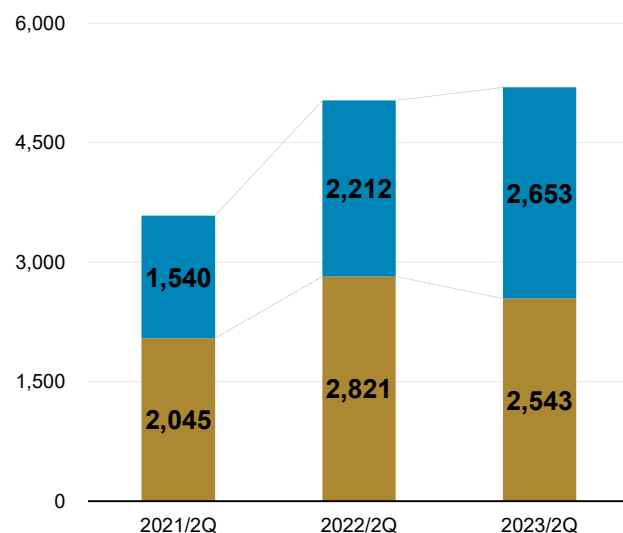
※セグメント別売上高はセグメント間取引を含んでおります。

セグメント別 売上高（海外）

農林業用機械：欧州向け刈払機の減少
工業用機械：北米向けの工業用ポンプの増加

売上高

(百万円)



単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2 四半期実績		2023 年 9 月期 第 2 四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比
農林業用機械	2,821	56.0%	2,543	△ 278	△ 9.9%	48.9%
工業用機械	2,212	44.0%	2,653	+ 441	+ 19.9%	51.1%

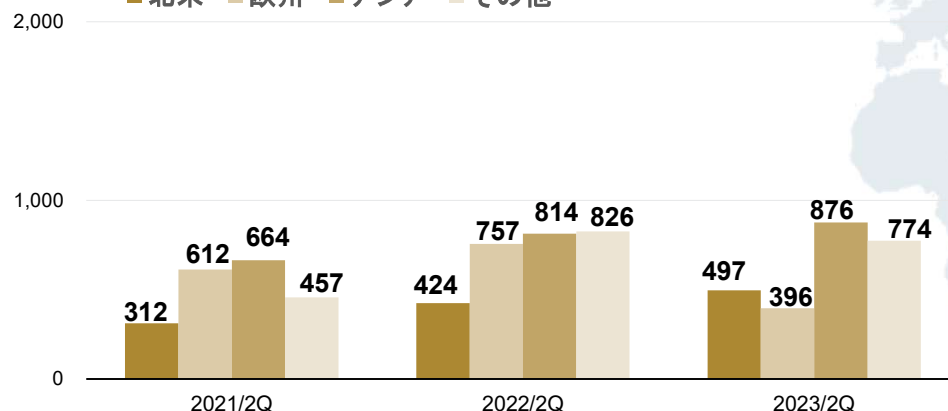
※セグメント別売上高はセグメント間取引を含んでおります。

セグメント別 売上高（海外地域別）

売上高（農林業用機械）

(百万円)

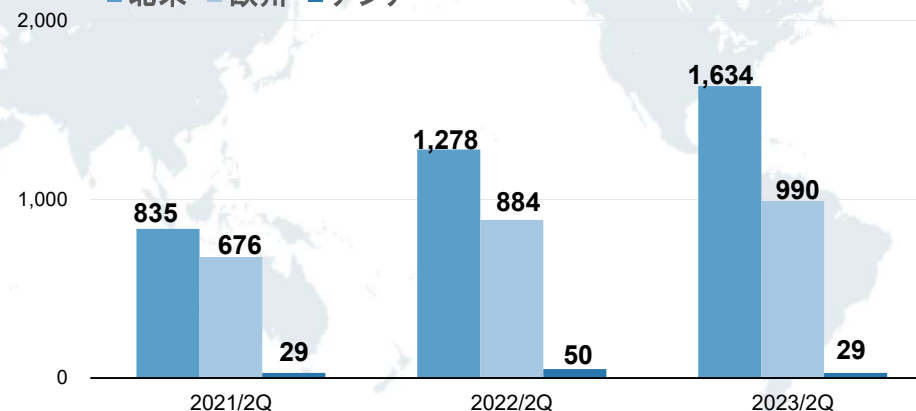
■ 北米 ■ 欧州 ■ アジア ■ その他



売上高（工業業用機械）

(百万円)

■ 北米 ■ 欧州 ■ アジア



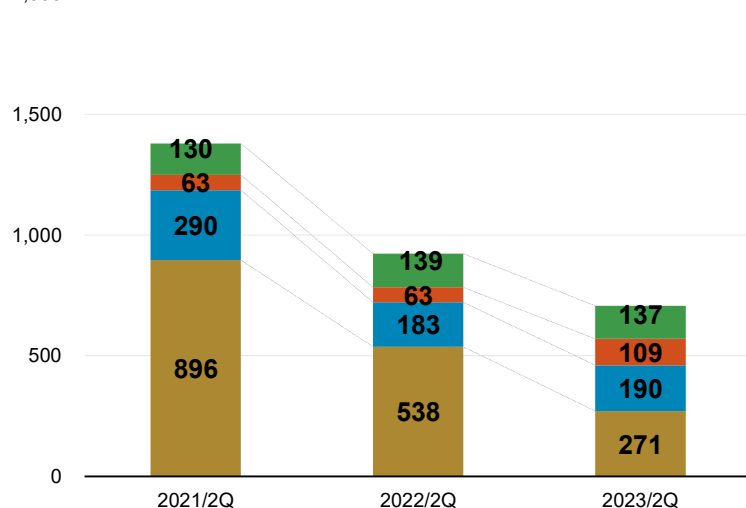
単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2 四半期実績		2023 年 9 月期 第 2 四半期実績			
	売上高	売上高 構成比	売上高	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 構成比
農林業用機械	2,821	56.0%	2,543	△ 278	△ 9.9%	48.9%
北米	424	8.4%	497	+ 73	+ 17.2%	9.6%
欧州	757	15.0%	396	△ 361	△ 47.7%	7.6%
アジア	814	16.2%	876	+ 62	+ 7.6%	16.9%
その他	826	16.4%	774	△ 52	△ 6.3%	14.9%
工業用機械	2,212	44.0%	2,653	+ 441	+ 19.9%	51.1%
北米	1,278	25.4%	1,634	+ 356	+ 27.9%	31.4%
欧州	884	17.6%	990	+ 106	+ 12.0%	19.1%
アジア	50	1.0%	29	△ 21	△ 42.0%	0.6%

セグメント別 営業利益（日本）

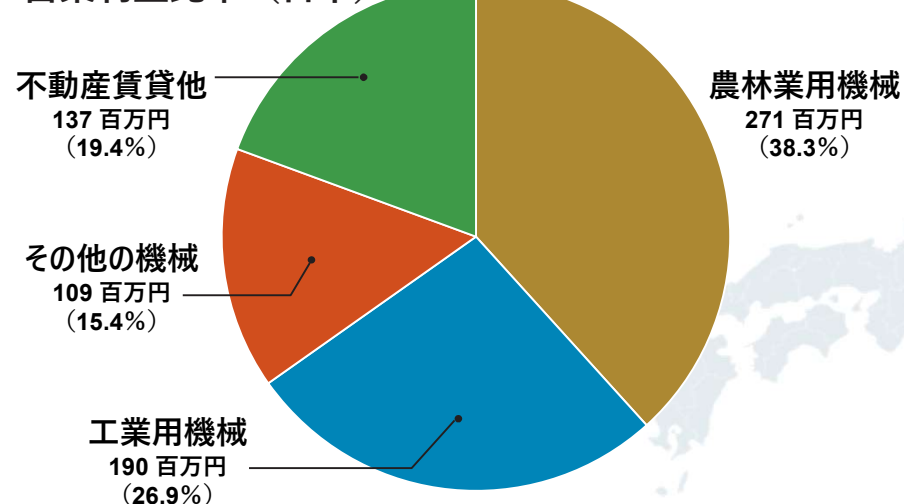
営業利益

(百万円)

2,000



営業利益比率（日本）



農林業用機械：

原材料高騰及び資材調達の混乱に伴う生産効率の悪化

単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2 四半期実績		2023 年 9 月期 第 2 四半期実績			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	538	58.3%	271	△ 267	△ 49.6%	38.3%
工業用機械	183	19.8%	190	+ 7	+ 3.8%	26.9%
その他の機械	63	6.8%	109	+ 46	+ 73.0%	15.4%
不動産賃貸他	139	15.1%	137	△ 2	△ 1.4%	19.4%

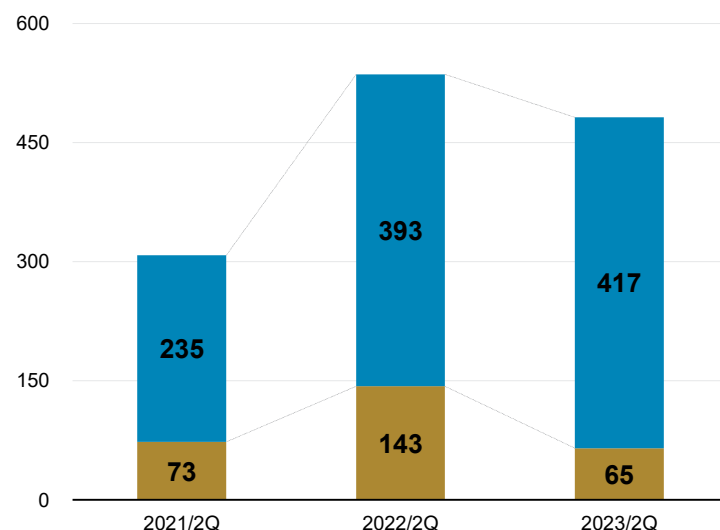
※営業利益は全社費用等調整前の金額であります。

セグメント別 営業利益（海外）

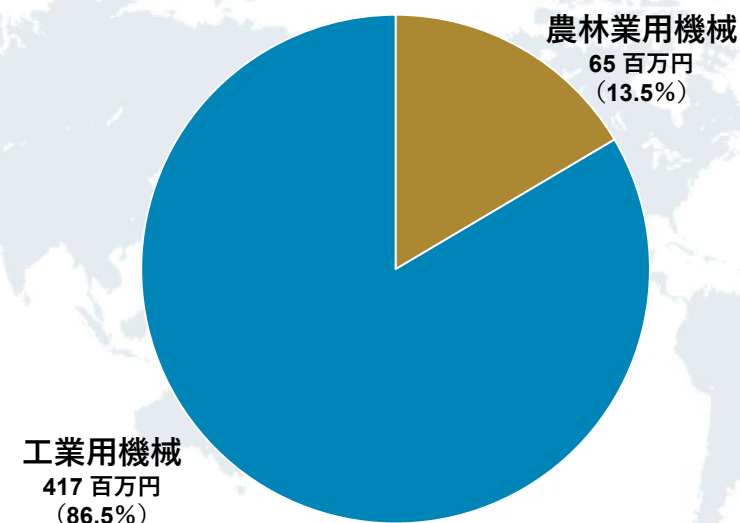
工業用機械：製商品の値上げ効果により営業利益改善

営業利益

（百万円）



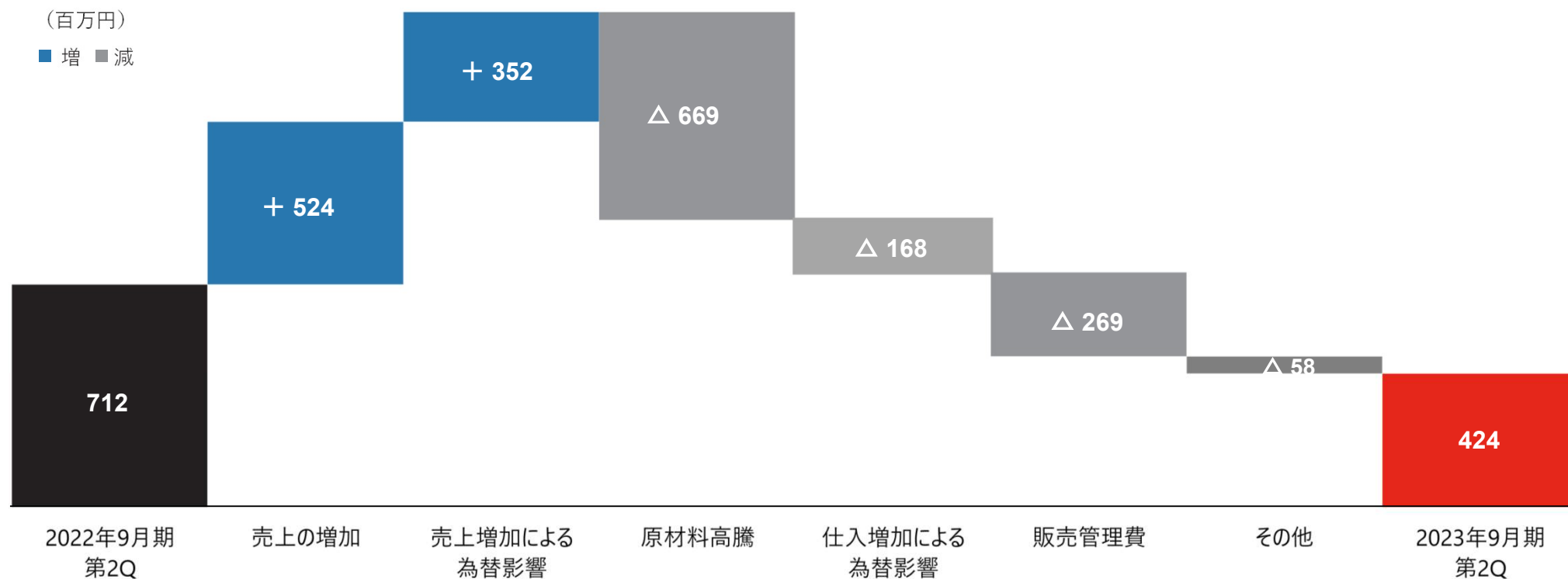
営業利益比率（海外）



単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2 四半期実績		2023 年 9 月期 第 2 四半期実績			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	143	26.7%	65	△ 78	△ 54.5%	13.5%
工業用機械	393	73.3%	417	+ 24	+ 6.1%	86.5%

※営業利益は全社費用等調整前の金額であります。

2023 年 9 月期 第 2Q 増減益要因分析（経常利益）



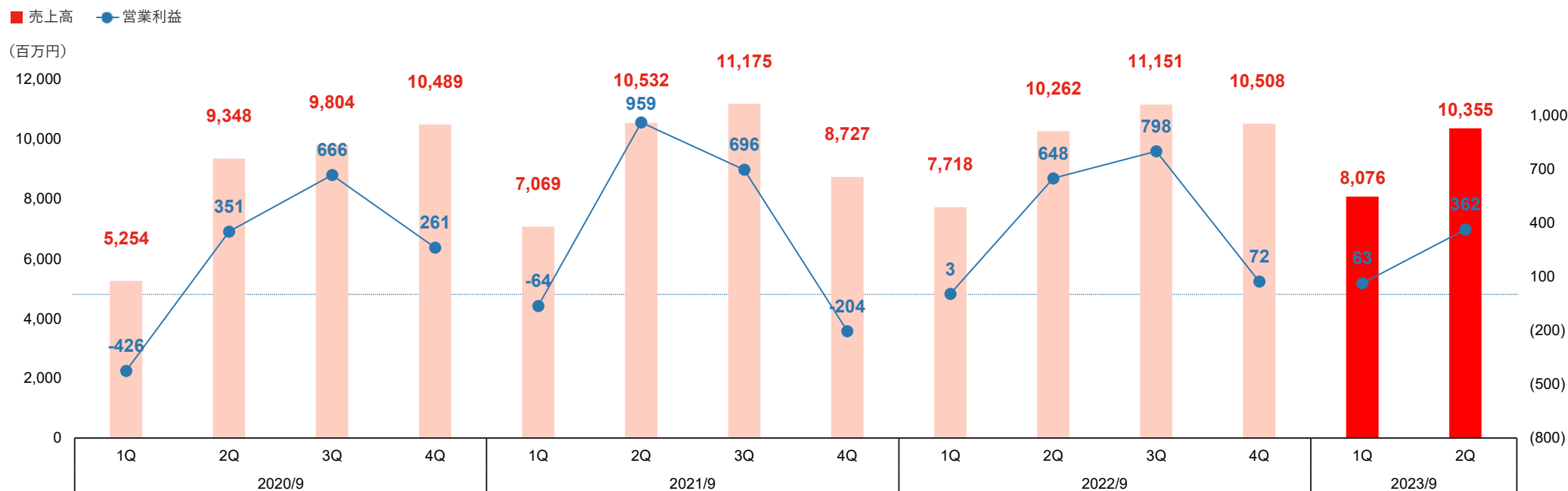
【＋】 値上げ等による売上の増加（＋524）、売上増加に伴う為替影響（＋352）が主な要因

【－】 原材料高騰等の影響（△ 669）、仕入増加に伴う為替影響（△ 168）、広告宣伝等の営業活動の増加（△ 269）が主な要因

売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

売上高は 18,431 百万円（前年同期比 2.5%増）
営業利益は 425 百万円（前年同期比 34.8%減）

※国内の農業用機械の需要期が3月から7月であるため、売上・利益ともに第1四半期は他の期に比べ少ない傾向にあります。





1 2023 年 9 月期 第 2 四半期 業績概要

【2022 年 10 月 1 日～2023 年 3 月 31 日】

2 2023 年 9 月期 業績予想

【2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日】

3 第 8 次中期経営計画

【2023 年 9 月期～2027 年 9 月期】

4 参考資料

会社概要 財務諸表 等

2023年9月期 業績予想

単位：百万円	2022年9月期 実績		2023年9月期 通期予想				2023年9月期 第2四半期 実績	
	金額	売上高 比率	金額	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	売上高 比率	金額	進捗
売上高	39,639	—	40,000	+ 361	+ 0.9%	—	18,431	46.1%
営業利益	1,521	3.8%	1,800	+ 279	+ 18.3%	4.5%	425	23.6%
経常利益	1,635	4.1%	1,750	+ 115	+ 7.0%	4.4%	424	24.2%
当期純利益	1,158	2.9%	1,200	+ 42	+ 3.6%	3.0%	378	31.5%
為替レート 米ドル	122 円		135 円					
為替レート ユーロ	135 円		140 円					

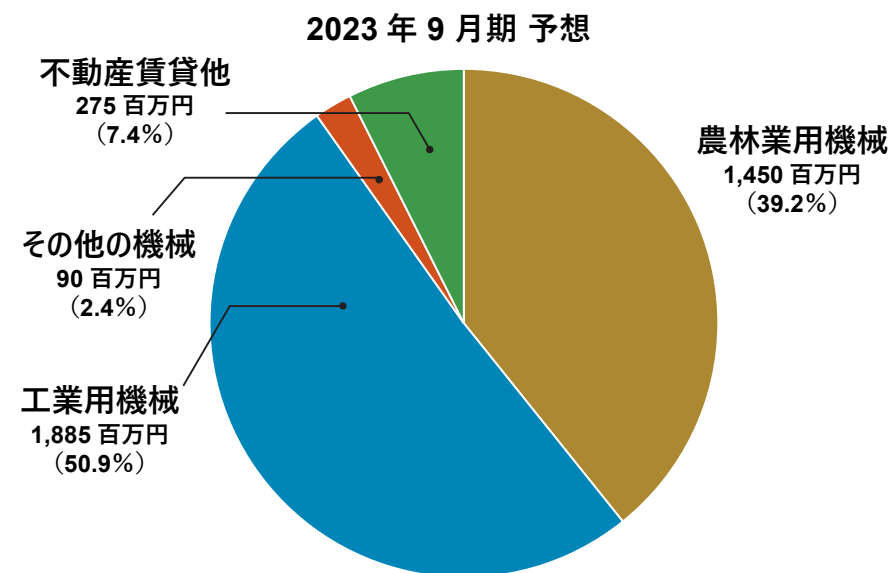
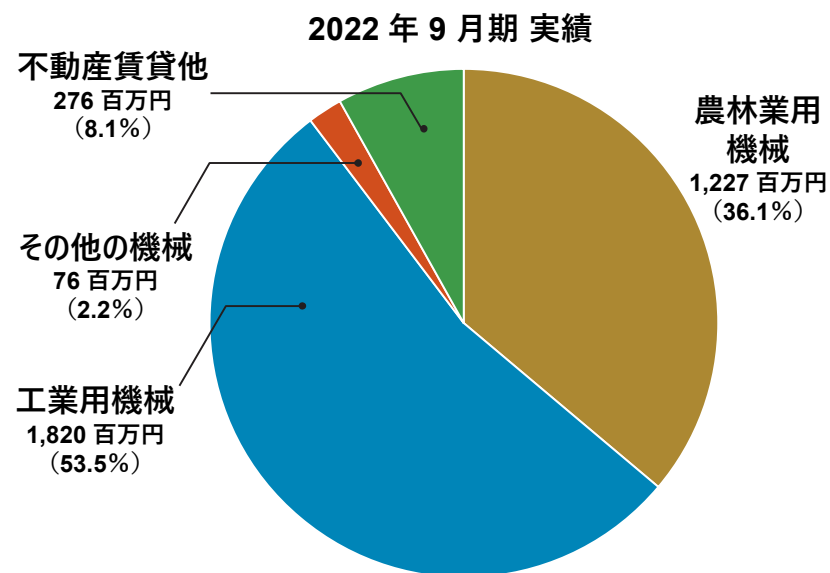
連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、製商品の更なる値上げなど上期における課題に対して必要な利益対策を講じるため、前回予想（2022年11月14日）を達成する見込みとなっておりますので修正いたしません。

2023年9月期 セグメント別業績予想

単位：百万円	2022年9月期 実績			2023年9月期 予想							
	売上高	売上高 構成比	営業 利益	売上高	売上高 増減額	売上高 増減率	売上高 構成比	営業 利益	営業利益 増減額	営業利益 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	29,838	74.7%	1,227	30,000	+ 162	+ 0.5%	74.5%	1,450	+ 223	+ 18.2%	39.2%
工業用機械	7,313	18.2%	1,820	7,475	+ 162	+ 2.2%	18.6%	1,885	+ 65	+ 3.6%	50.9%
その他の機械	2,293	5.8%	76	2,330	+ 37	+ 1.6%	5.8%	90	+ 14	+ 18.4%	2.4%
不動産賃貸他	479	1.2%	276	480	+ 1	△ 0.2%	1.2%	275	△ 1	△ 0.4%	7.4%
調整額 (セグメント間取引)	△ 285	—	△ 1,878	△ 285	—	—	—	△ 1,900	△ 22	—	—
合計	39,639	100.0%	1,521	40,000	+ 361	+ 0.9%	100.0%	1,800	+ 279	+ 18.3%	100.0%

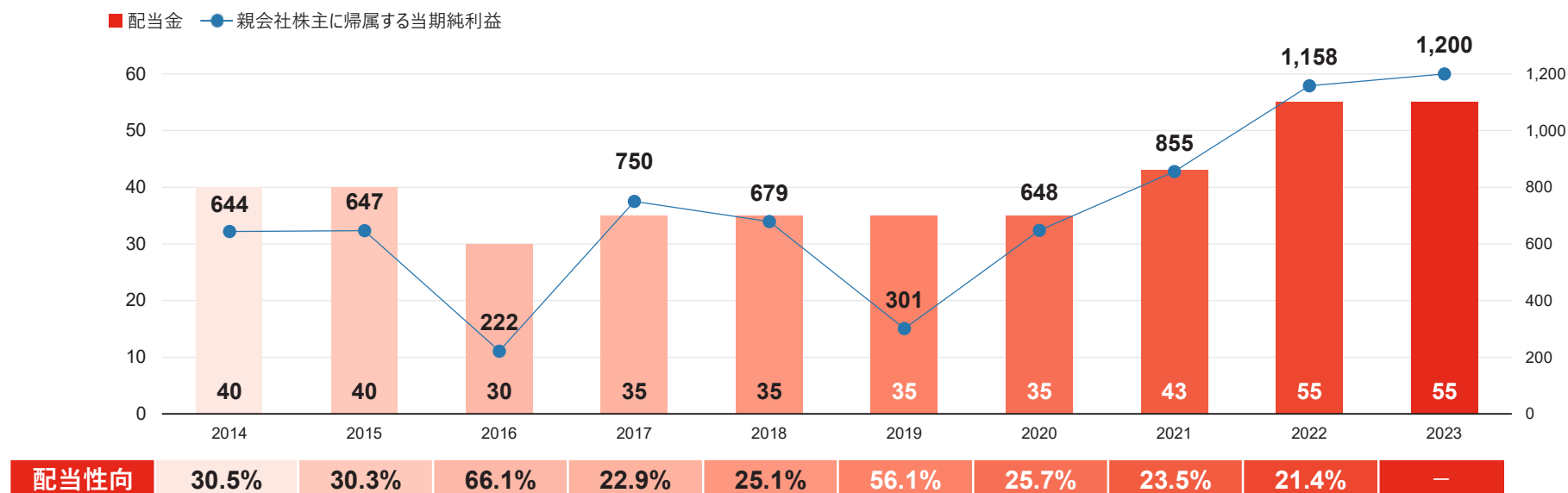
セグメント別 営業利益予想



単位：百万円	2022年9月期		2023年9月期			
	営業利益	営業利益 構成比	営業利益	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	営業利益 構成比
農林業用機械	1,227	36.1%	1,450	+ 223	+ 18.2%	39.2%
工業用機械	1,820	53.5%	1,885	+ 65	+ 3.6%	50.9%
その他の機械	76	2.2%	90	+ 14	+ 18.4%	2.4%
不動産賃貸他	276	8.1%	275	△ 1	△ 0.4%	7.4%

株主還元

- ・安定的な配当を継続することを基本として、将来の事業展開に必要な内部留保ならびに業績見込みなどを勘案することを方針としております。
- ・来期の配当予想額は当期と同じ 1 株につき 55 円
- ・自社株式取得：130,000 株（上限）（取得価格の200百円）
期間は 2023 年 2 月 9 日～ 2023 年 10 月 6 日



※ 2017 年 4 月 1 日付で普通株式 10 株を 1 株とする株式併合を実施したため、1 株あたりの配当金については 2010 年に株式併合が行われたと仮定し、算定しております。



1 2023 年 9 月期 第 2 四半期 業績概要

【2022 年 10 月 1 日～2023 年 3 月 31 日】

2 2023 年 9 月期 業績予想

【2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日】

3 第 8 次中期経営計画

【2023 年 9 月期～2027 年 9 月期】

4 参考資料

会社概要 財務諸表 等

2030年 長期経営ビジョン

社会の課題

- ・ 調達難・材料高騰
- ・ 世界的食糧難・水不足
- ・ ウイルス対策
- ・ 人材・労働力不足
- ・ 環境問題
- ・ 国際政治・経済問題

2030年 長期経営ビジョン

- SDGsに繋がるESG経営の強化
- 社会貢献型企業として成長市場に進出

目標

- 食・水・環境分野の社会課題解決
- CO₂排出量 50%削減
- 女性管理職 7名

成長市場

【食・農業・畜産市場】

農薬の適量散布：大型防除機・ドローン・ウルトラファインバブル製品による課題解決
養殖・育苗：ウルトラファインバブル製品の投入

【環境市場】

消臭・節水・RO処理（水処理）・ミスト・気液混合・ウルトラファインバブルなどのポンプ技術による社会的課題の解決
環境ニーズ・リサイクルニーズへの対応

第8次中期経営計画（2023年9月期～2027年9月期）

◆ 中期経営計画コンセプト：「成長事業の創出」

ESG経営の強化

攻めのESG

食・水・環境市場
社会貢献

守りのESG

持続可能な体制づくり
リスク管理・投資・ガバナンス強化



第8次中期経営計画（2023年9月期～2027年9月期）

- ◆ MUFB技術の更なる進化とスマート農業化の促進
- ◆ 既存技術の進化
- ◆ 品質対策と製品安全の体制強化

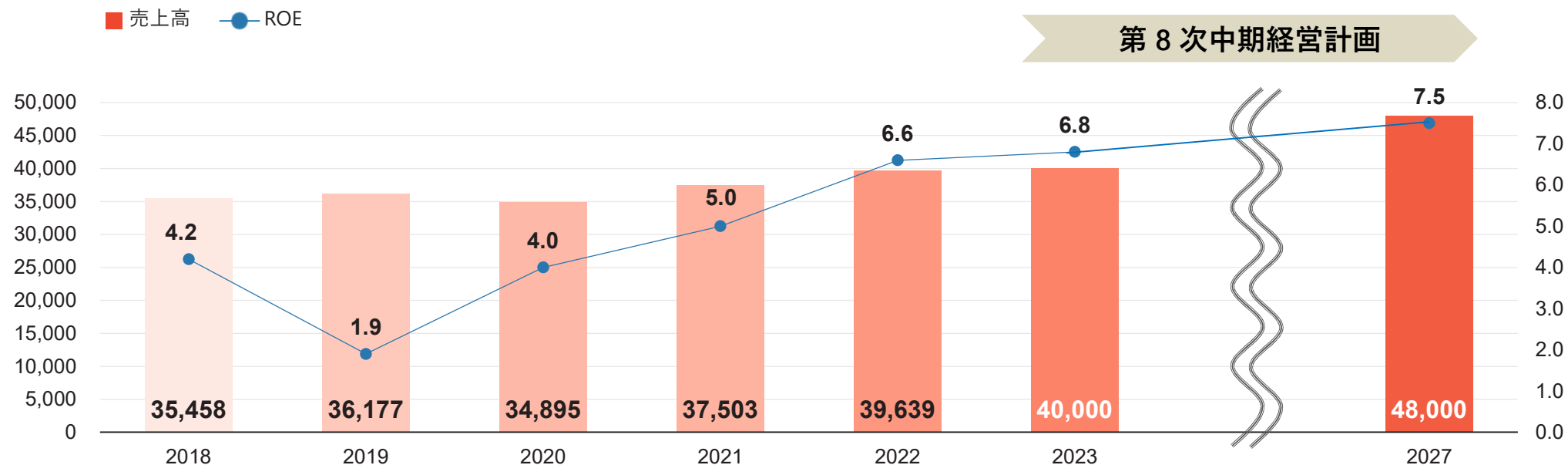
- ◆ 国内の新市場開拓・既存市場の成長
- ◆ アジア市場へのリソース拡大
- ◆ 海外売上比率35%を目指す
- ◆ アフターマーケット強化



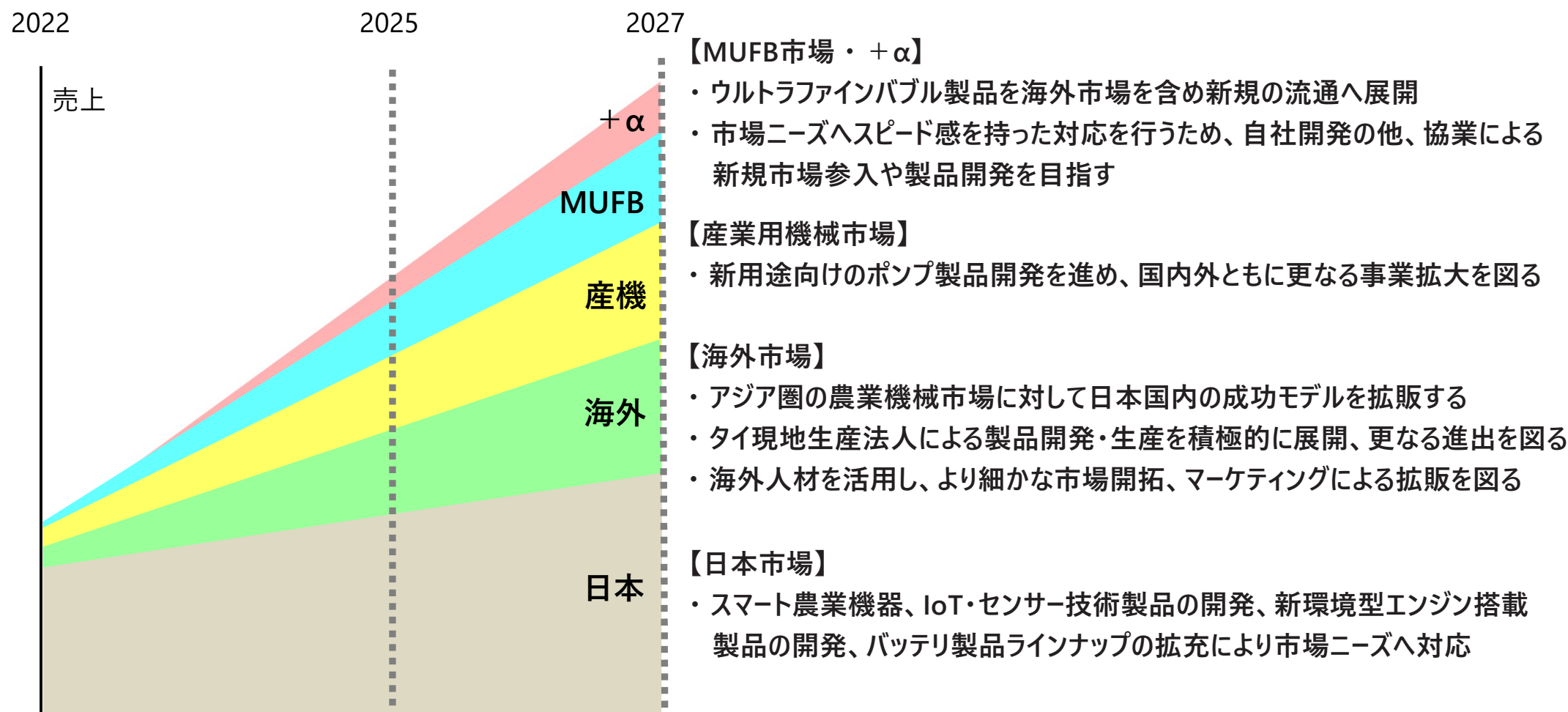
- ◆ ブランド力強化・ガバナンス強化
- ◆ 働き方改革・労働安全確保・従業員満足度向上
- ◆ 収益力向上・財務体質強化
- ◆ 丸山流DXを通じたイノベーティブな組織風土創造

第8次中期経営計画の目標

単位：百万円	2022 年度 実績	2023 年度 目標値	2027 年度 目標値
売上高	39,639	40,000	48,000
営業利益	1,521	1,800	2,800
ROE	6.6%	6.8%	7.5%



第8次中期経営計画 事業成長イメージ



成長事業の創出：MUFB（ウルトラファインバブル）技術

ウルトラファインバブルとは...1 μ m以下の微小な泡

- 抜群の洗浄能力
 - ① 洗剤なしでも洗濯ができる
 - ② 細菌・ウイルス・悪臭を破壊
- 生理活性効果
 - ① 植物や養殖魚の生育を促進

洗浄

- ・トイレの尿石が取れた
- ・臭いが減った
- ・除塩作業の効率が良くなった



水産業

- ・養殖魚が短期間で大きくなった
- ・鮮度が長く保たれるようになった



農業

- ・野菜のハリ、ツヤが良くなった
- ・果物の収穫量が増え甘さも増した



工業

- ・洗浄力の向上により洗剤の量が減った
- ・金属加工で使う切削液が長持ちした



ファインバブル活用事例集を基に当社作成： https://k-rip.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/finebubble_ver4.pdf

家庭

- ・髪や肌がうるおった
- ・節水しながら洗うことができる
- ・排水溝のニオイがなくなった



成長事業の創出：スマート農業・環境型製品への取り組み

大型機械

- ・車両情報を衛星により把握し、圃場内において高精度な自動操舵を実現
- ・自動操舵機能を搭載した製品を市場へ投入

自動走行や無人走行などの自動化に向けた製品開発およびIoT技術やセンサー技術を応用した製品開発に取り組みます。

スプレーガイダンス / オートステアリング



ドローン

- ・防除機メーカーである当社による農業用に特化した扱いやすい機体を販売
- ・GPS信号を受信した自動制御飛行
- ・資格取得の教習からアフターサービスまでトータルサポート体制を構築



ドローンの普及および安全な操作に向けて取り組みます。

環境型製品

- ・排気ガス規制に対応した新型エンジンを製品に搭載
- ・バッテリー製品のラインナップを拡充

環境負荷低減に向けた製品開発に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。



サステナビリティへの取り組み

ESG経営、SDGsの達成に向けた取り組みをより一層推進するため、サステナビリティ専門家を招き、経営層を中心としたサステナビリティ委員会、将来を担う若手メンバーを中心としたサステナビリティ推進委員会にて、サステナビリティの方針、重要課題、KPIなどのテーマについて議論を進めております。

また、サステナビリティに関するレポート開示に向けた取り組みを進めております。

丸山グループのコアテクノロジーであるポンプとエンジン技術を最大限発揮し、食・水・環境の分野において、事業活動を通じたサステナビリティを実現し、グローバルに社会貢献できるよう活動を継続してまいります。



【丸山製作所グループのサステナビリティ】

【CO₂排出量削減への取り組み】

当社グループで2番目に生産量の多い日本クライス株式会社（東金市）にて使用する電力を、再生可能エネルギー由来の電力へ変更いたしました。日本クライス株式会社から発生するCO₂排出量808t-CO₂のうち約99%を削減することができました。

全拠点において、CO₂排出削減に向けた取り組みを進めてまいります。





1 2023年9月期 第2四半期 業績概要

【2022年10月1日～2023年3月31日】

2 2022年9月期 業績予想

【2022年10月1日～2023年9月30日】

3 第8次中期経営計画

【2023年9月期～2027年9月期】

4 参考資料

会社概要 財務諸表 等

貸借対照表

単位：百万円	2022 年 9 月期 期末		2023 年 9 月期 第 2Q		増減額	主要因
	金額	構成比	金額	構成比		
総資産	34,459	100.0%	35,699	100.0%	+ 1,239	
流動資産	22,615	65.6%	23,233	65.1%	+ 618	受取手形、売掛金・契約資産、製商品等の増加 現金・預金、電子記録債権の減少
固定資産	11,844	34.4%	12,465	34.9%	+ 621	
流動負債	14,293	41.8%	15,650	43.8%	+ 1,357	支払手形・買掛金、電子記録債務の増加
固定負債	2,466	7.2%	2,080	5.8%	△ 386	
純資産	17,699	51.4%	17,968	50.3%	+ 269	期末日にかけての時価の上昇によるその他有価証券評価差 額金の増加

	2022 年 9 月期 期末	2022 年 9 月期 第 2Q
自己資本比率	51.1%	50.1%
流動比率	158.2%	148.5%

(注) 1. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度の総資産の金額については、当該会計基準等を遡って適用した後の金額となっております。

キャッシュフロー計算書

単位：百万円	2022 年 9 月期 第 2Q	2023 年 9 月期 第 2Q	増減額	変動要因
営業活動によるキャッシュフロー	△ 125	△ 1,033	△ 908	棚卸資産の増加
投資活動によるキャッシュフロー	△ 260	△ 460	△ 199	有形固定資産の取得による支出の増加
フリーキャッシュフロー	△ 385	△ 1,493	△ 1,108	
財務活動によるキャッシュフロー	△ 433	353	+ 786	短期借入金及び長期借入金の増加
現金及び現金同等物期末残高	3,305	3,449	+ 144	

会社概要

社 名	株式会社丸山製作所
代 表 者	代表取締役社長 内山 剛治
本 社	〒101-0047 東京都千代田区内神田3丁目4番15号
創 業・設 立	【創業】1895年 【設立】1937年11月
資 本 金	46億51百万円
売 上 高	396億39百万円（2022年9月期）
事 業 年 度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
上 場	東京証券取引所 スタンダード
従 業 員 数	【単体】576名 【連結】940名（2023年3月31日現在）
証 券 コ ー ド	6316
事 業 内 容	農林業用機械、工業用機械、消防機械の製造・販売
U R L	https://www.maruyama.co.jp/

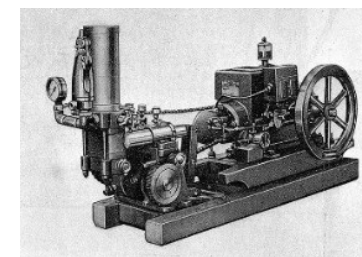


沿革

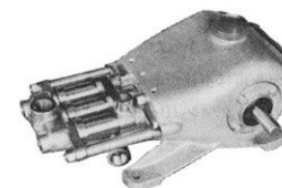
- 1895 年 新潟県高田町にて丸山商会を創業（日本で初めて消火器を製造）
- 1918 年 人力噴霧器の製造・販売
- 1935 年 動力噴霧機の製造・販売
- 1937 年 株式会社丸山製作所を設立
- 1961 年 東京証券取引所市場第二部に上場
- 1967 年 工業用ポンプを開発
- 1977 年 東京証券取引所市場第一部に指定
- 1990 年 オリジナル 2 サイクルエンジン開発
- 2000 年 新環境型 2 サイクルエンジンを開発
カリフォルニア州排ガス規制クリア
- 2004 年 消火剤リサイクル…eco 消火器を販売
- 2012 年 キャビン付ハイクリブームの開発
- 2016 年 マルチローター（ドローン）の開発
- 2018 年 ハイクリブーム発売 30 周年を迎える
- 2020 年 創業 125 周年



丸山式消火器



横型三連式動力噴霧機



工業用ポンプ



2 サイクルエンジン



キャビン付ハイクリブーム

当社の事業内容



農林業用機械分野

現在、丸山グループの基幹となっている事業です。

丸山独自のポンプを使用した防除機は、
変化し続ける農家の皆様のニーズに対応すべく、
多種多様な製品を製造・販売しております。
また、自社製の2サイクルエンジンを使用した刈払機、
チェーンソーなども扱っています。

産業機械分野

現在、丸山製作所が力を入れている事業です。

高圧洗浄機や洗車機、ミスト装置などに使われる
産業用の高圧ポンプの開発・製造を行っております。
また、畜舎内での病原菌の感染を防ぐ車両消毒装置など、
環境衛生機器分野にも丸山製作所のポンプは活用されております。

防災関連分野

丸山製作所は日本で最初に消火器の製造・販売をした企業です。
多様化する社会の中で「環境とより安全な消火器で社会に貢献する」という
理念のもと、消火薬剤のリサイクル化を進め、
技術改良と製品開発により、さまざまなニーズに対応しております。

当社製品



当社の主力

消火器の製造から始まり、現在ではポンプ・エンジンが当社のコアテクノロジーです。

ポンプとエンジンは製品の動力源であり、製品の心臓部となるものです。様々な分野の製品で活用されています。



ポンプ & エンジン

当社の強み（製品）

当社の製品は様々な分野でトップシェアを獲得しています。



ポンプ製品の農業用防除機で
国内トップシェア



海外（北米）でのカーウォッシュ用ポンプで
トップシェア



エンジン製品の刈払機でホームセンター流通に
おいて国内トップシェア

国内の販売・生産・サービス拠点

本社 東京都千代田区

生産拠点 4ヶ所
千葉県東金市（2ヶ所）
長野県須坂市
岡山県苫田郡

営業拠点 全国 25ヶ所
北海道（江別・帯広）／青森／岩手／秋田／
山形／宮城／福島／茨城／栃木／千葉／新潟／
長野／山梨／石川／愛知／静岡／大阪／広島／
岡山／香川／福岡／熊本／鹿児島／宮崎

物流拠点 3ヶ所
福島県／千葉県／岡山県

関係会社 日本クライス株式会社
マルヤマエクセル株式会社
西部丸山株式会社
丸山物流株式会社
双葉商事株式会社

千葉工場 （東京ドーム3個分の敷地）



物流拠点（福島）



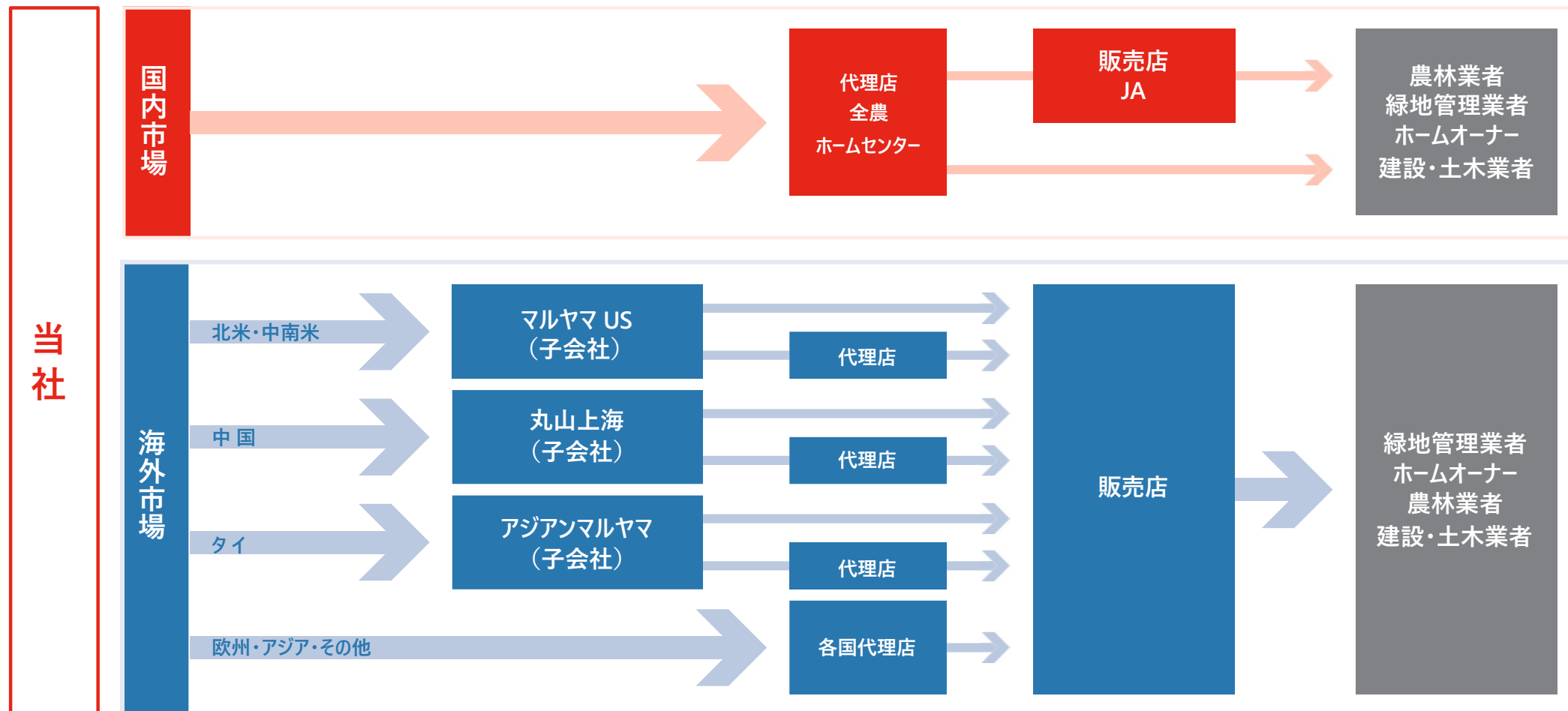
西部丸山（岡山）



海外の販売・生産拠点



主な販売経路



ポンプを使用した工業用製品

スパウターによる消臭作業



テーマパークで使用するミスト



高圧洗浄機



温度管理ミスト



カーウォッシャー



災害時緊急給水 RO



ポンプを使用した農業用製品

スタジアムの抗菌 抗ウイルスコーティング

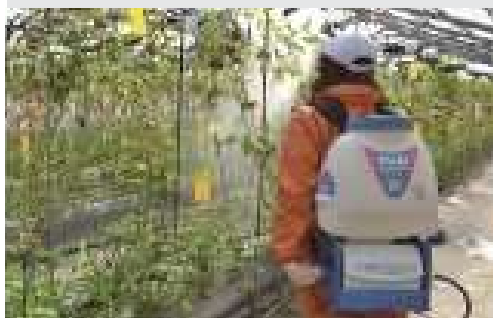


牛舎での除菌作業



【畑・ビニールハウス】

背負動力噴霧機



【果樹園】

ステレオスプレーヤ



【田・畑】

ハイクリboom



【中山間地】

ドローン



エンジンを使用した製品

刈払機



ブロワー



ヘッジトリマー



チェーンソー



背負動力噴霧機



当社の強み（生産体制）

丸山グループは設計・製造からお客様のお手元に製品が届くまで、グループ内で一貫して行なっております。



新型ハイクリブーム「BSA-2000C」誕生

2023年1月より、新型ハイクリブーム「BSA-2000C」の発売を開始いたしました。
大規模区画の多い北海道の生産者様のご意見をお伺いして開発した「BSA-2000C」は、
これまでのハイクリブームの血統を継承しつつ、より実用性の高いモデルとなっております。

各拠点に実演機を配置し、展示会への出展や、圃場でのデモなどを随時行ってまいります。



カタログはこちら

【機能性】

- タンク容量 2,000 L
- 散布幅 21.9 m
- 散布速度 7.0 km/h



【走行性能】

- ミッドタンクレイアウトによる安定走行
- 最高速度 18 km/h
- 国産自走式ブームスプレーヤ初の公道走行対応

【快適性】

- ワイドキャビンによる広い視界
- 疲れないシート&アームレスト
- 右側に集中した操作系



プロモーション動画はこちら

【運用性】

- 3.5 t積載車に積載可能
- エアダンパー式ボンネットでメンテナンス性向上



製品案内動画はこちら

ステレオスプレーヤの安全講習を実施



安全講習会の風景



2022 年 12 月、JAフルーツ山梨様が中心となって開催された SS（ステレオスプレーヤ）の安全講習会に、当社も参画いたしました。

当該講習会は、SSによる農作業中の死亡事故が増加していることが背景となっており、事故防止の啓蒙を行うべく、県内初の取り組みとして開催する運びとなりました。

講習会では当社の担当者が講師となり、主な事故例や運転の方法、定期点検整備のポイントなどを説明いたしました。

今後もお客様が安心安全に製品をお使いいただけるよう、製品安全に関する啓蒙を積極的に行ってまいります。

MUFBクーラント液長寿命化装置を開発

クーラント液（冷却水）のコンディション維持と臭気問題を改善できるMUFBウルトラクーラントフレッシャー「UCF202M」を開発いたしました。本機はMUFB生成技術を活用することで、クーラント液をMUFB化し、細菌の増殖や臭気を抑制し、クーラント液の長寿命化、廃液低減、環境や作業への負担低減を図ることが可能となっております。

今後もウルトラファインバブル事業の拡大を通じて新しい分野へ挑戦し、社会へ貢献できる企業を目指してまいります。

※MUFB：直径 $1\mu\text{m}$ 未満の超微細な気泡（丸山ウルトラファインバブル）

- MUFBによるクーラント長寿命化、臭い抑制
- クーラント装置（ろ過装置）のクーラント槽に送水ポンプとホースを投げ込むだけの簡単仕様



UCF202M



カタログはこちら

本社・日本クライスに非常用発電機を設置

BCPの一環として、丸山製作所本社（東京都千代田区）および日本クライス（千葉県東金市）敷地内に、非常用発電機を設置いたしました。災害等の発生により電気の供給が止まった際に、重要事業・重要業務を継続できるよう、稼働範囲および稼働時間を選定しております。

今後もステークホルダーの皆様から「次も丸山」と仰っていただくため、事業継続の実効性を高め、いつまでも信頼されつづける企業を目指してまいります。



本社

設置時期：2023年3月

稼働範囲：人事総務部・サーバ室

稼働時間：約60時間（100%負荷使用時）



日本クライス

設置時期：2022年9月

稼働範囲：エンジンシリンダ・クランクケース工作現場

稼働時間：約50時間（100%負荷使用時）

株主優待

- ・株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式に対する中長期的な投資魅力を高めることを目的として、株主優待制度を実施しております。
- ・ESG活動の一環として本年度よりQUOカード1枚につき10円を社会貢献団体に寄付することとし、自然保護等に役立ててまいります。

【贈呈対象】

毎年9月30日の当社株主名簿に記載されており、100株以上の当社株式を1年以上継続保有されている株主様

(継続保有期間) 1年以上3年未満	100株以上	QUOカード1,000円分
(継続保有期間) 3年以上5年未満	100株以上200株未満	QUOカード2,000円分
	200株以上	QUOカード2,500円分
(継続保有期間) 5年以上7年未満	100株以上200株未満	QUOカード3,000円分
	200株以上	QUOカード4,000円分
(継続保有期間) 7年以上	100株以上200株未満	QUOカード5,000円分
	200株以上	QUOカード6,000円分

注) 1. 2017年4月1日を効力発生日とする、普通株式10株を1株とする株式併合を行っております。

2. 継続保有期間の確認にあたっては、3月31日及び9月30日の株主名簿に連続して記載される同一の株主番号の回数並びに各回において100株以上の確認を基準といたします。

・1年以上3年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続3～6回記載

・3年以上5年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続7～10回記載

・5年以上7年未満：株主名簿に100株以上の保有を、連続11～14回記載

・7年以上：株主名簿に100株以上の保有を、連続15回以上記載

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

【 I Rに関するお問い合わせ先】

株式会社丸山製作所
人事総務部

〒101-0047 東京都千代田区内神田3-4-15

TEL : 03-3252-2271

E-mail : ir-contact@maruyama.co.jp